

看護体験実習

責 任 者・コーディネーター		薬科学講座構造生物薬学分野 阪本 泰光 教授 臨床薬学講座臨床薬剤学分野 朝賀 純一 准教授	
担当講座・学科(分野)		薬科学講座構造生物薬学分野、臨床薬学講座（臨床薬剤学分野、情報薬科学分野）	
対象学年	3	区分・時間数 (1コマ2時間換算)	講義 42 時間 (21 コマ)
期 間	後期		
単 位 数	1 単位		

・ねらい

看護体験を自ら実践することを通して、患者との接し方や患者に共感することの大切さを学ぶことにより、患者対応に必要な心理学的および行動科学的な基礎能力を身につけることができる。また、患者とのコミュニケーションを通して得られた各種情報から患者の抱えている問題点を見いだす努力を行うことにより、それらに配慮できる態度を身につけることができる。

・学修目標

- 1) 常に患者・生活者の視点に立ち、地域保健・チーム医療・福祉の担い手としてふさわしい態度で行動できる。
- 2) 患者・生活者の健康の回復と維持に積極的に貢献し、薬剤師が果たすべき役割を自覚できる。
- 3) 医薬品のリスクを認識し、患者を守る責任と義務を果たすことができる。
- 4) 倫理規範や法令を理解し、遵守して行動できる。
- 5) 患者・患者家族・生活者が求める医療人について自らの考えを述べることができる。
- 6) 生と死を通して、生きる意味や役割について自らの考えを述べることができる。
- 7) 様々な死生観・価値観・信条・人生観を受容・配慮することの重要性を説明できる。
- 8) 患者の自己決定権とインフォームドコンセントの意義を説明できる。
- 9) 知り得た情報の守秘義務を理解し、適切に情報提供できる。
- 10) 患者・家族・生活者の心身の状態や多様な価値観に配慮して行動できる。
- 11) 自分の心理状態を意識して他者と接することができる。
- 12) 適切な聴き方や質問を通じて相手の考えや感情を理解できる。
- 13) 適切な手段により自分の考えや感情を伝えることができる。
- 14) 他者の意見を尊重し、協力してよりよい解決法を見出すことができる。
- 15) チームワークと情報共有の重要性を理解し、積極的に役割を果たすことができる。
- 16) 自己の能力の限界を認識し、状況に応じて他者に協力・支援を求めることができる。
- 17) チーム医療における薬剤師の役割と重要性を説明できる。
- 18) 多様な医療チームの目的や構成、構成員の役割を説明できる。
- 19) 医師・看護師等と連携・協力して患者の最善の治療・ケア提案を検討できる。
- 20) 看護師の視点から薬剤師の役割を理解し、チーム医療を実践する基礎的能力を養うことができる。
- 21) 将来の薬剤師と薬学の役割について討議できる。
- 22) 医療・福祉・医薬品に関わる問題や社会的動向、科学の進歩に目を向け、課題を見出し解決に努めることができる。
- 23) 生涯にわたって学修する重要性を認識し、その意義を説明できる。

- 24) 人・社会が医薬品に抱く多様な考え方や思いについて討議できる。
25) 人・社会の視点から薬剤師を取り巻く仕組みや規制について討議できる。

・薬学教育モデル・コア・カリキュラム（令和4年度改訂版）対応項目

B-1-1 薬剤師に求められる倫理観とプロフェッショナリズム
B-1-2 患者中心の医療
B-2 薬剤師に求められる社会性
B-2-2 多職種連携

・学修事項

- (1) プロフェッショナリズムの概念
(2) 職業観の形成
(3) 患者の基本的権利
(4) 患者・患者家族の心理
(5) 医療コミュニケーションの技法(傾聴、受容、共感、質問法、伝え方、解釈モデル等)
(6) 他の医療、保健、介護、福祉関係者の職能の理解

・この科目を学ぶために関連の強い科目

実務実習、事前実務実習

・この科目を学んだ後につなげる科目

事前実務実習

・講義日程

(矢) 附属病院、(矢) 東 403 4-C 実習室

月日	曜日	時限	講座・分野	担当教員	講義内容/到達目標
10/30	金	3	構造生物薬学分野 臨床薬学分野 情報薬科学分野	阪本 泰光 教授 朝賀 純一 准教授 佐京 智子 助教	実習の説明 1. 実習の意義について理解できる。 事前学修：事前配布の講義資料を確認し、要点をつかんでおくこと。 事後学修：ガイダンス資料を利用し、実習に臨む姿勢、あらかじめ学修する事項を理解し、実習の準備をすること。
11/2	月	1-4	構造生物薬学分野 情報薬科学分野	阪本 泰光 教授 佐京 智子 助教	看護体験の実践 1～4 1.患者の情報交換 2.床頭台整理 3.清拭の援助 4.口腔ケア 5.爪切り

11/4	水	1-4	構造生物薬学分野 情報薬科学分野	阪本 泰光 教授 佐京 智子 助教	6.体位変換 7.食事への援助 8.氷枕作成および貼用 9.シーツ交換 10.患者輸送 11.歩行介助(見学) 12.リハビリ中の患者介助(見学) 13.回診見学 14.検査 処置の準備・後始末 15.オリエンテーション見学 16.コミュニケーション 17.医薬品投与の援助・見学 18.検温 19.血圧測定(学生間) をできるようになる。 事前学修：事前配布の手引き書を確認し、要点をつかんでおくこと。 事後学修：ポートフォリオを利用し、学修した範囲を復習し、重要事項を定着させること。
11/5	木	1-3 1-4	構造生物薬学分野 情報薬科学分野	阪本 泰光 教授 佐京 智子 助教	
11/6	金	1-4	構造生物薬学分野 情報薬科学分野	阪本 泰光 教授 佐京 智子 助教	
11/9	月	1・2	構造生物薬学分野 情報薬科学分野	阪本 泰光 教授 佐京 智子 助教	看護体験の振り返り 問題基盤型学修(PBL) 1. 実習で学んだことをまとめ、今後に活かす方法をグループで議論し、その内容を説明できる。 【PBL】 事前学修：事前配布の手引き書を確認し、要点をつかんでおくこと。 事後学修：ポートフォリオを利用し、学修した範囲を復習し、重要事項を定着させること。
11/9	月	3・4	構造生物薬学分野 臨床薬学分野 情報薬科学分野	阪本 泰光 教授 朝賀 純一 准教授 佐京 智子 助教	看護体験の振り返り プレゼンテーション 1. 実習で学んだことをまとめ、今後に活かす方法をグループで議論し、その内容を説明できる。 【プレゼンテーション】 事前学修：事前配布の手引き書を確認し、要点をつかんでおくこと。 事後学修：ポートフォリオを利用し、学修した範囲を復習し、重要事項を定着させること。

・ディプロマポリシーとこの科目の関連

1. 薬剤師として医療に携わる職業であることを理解し、高い倫理観と豊かな人間性、及び社会の変化に柔軟に対応できる能力を有しているもの。

◎

2. 地域における人々の健康に関心をもち、多様な価値観に配慮し、献身的な態度で適切な医療の提供と健康維持・増進のサポートに寄与できるもの。	◎
3. チーム医療に積極的に参画し、他職種の相互の尊重と理解のもとに総合的な視点をもってファーマシューティカルケアを実践する能力を有するもの。	◎
4. 国際的な視野を備え、医療分野の情報・科学技術を活用し、薬学・医療の進歩に資する総合的な素養と能力を有するもの。	○

・評価事項とその方法

看護体験実習の評価方法については下記のとおりとする。なお、看護体験実習の無断欠席があった学生には、本実習に関する評価点を与えない。

《看護体験実習評価方法》

- 1) 実習態度評価点（70％）・・・看護部から提出された評価表の内容
- 2) 実習期間中作成するポートフォリオ（15％）＋実習終了後提出するレポート（15％）

学修事項	DP	中間試験	レポート	小テスト	定期試験	発表	その他	合計
1)-6)	1-4						70 (実習態度)	70
1)-6)	1-4		15					15
1)-6)							15 (ポートフォリオ)	15
合計			15				85	100

・特記事項・その他

本実習では、担当教員が学生に補助支援を行うとともに、実習施設の指導看護師が看護業務における自らの実務経験を活かして実践的な教育を行う。

看護体験初日の事前学修としては、講義初日の配付資料をよく復習しておくこと。事後学修としては、ポートフォリオに実習で気付いたこと、うまくいったことおよびうまくいかなかったことをまとめ、その上で次の日の実習での願望およびプランをまとめること。実習に対する事前・事後学修（予習・復習）の時間はそれぞれ1時間を要する。

ポートフォリオやレポートは教員が確認し、必要に応じてコメントを追記し、各学生に返却する。

当該科目に関連する実務経験の有無 有

病院における薬剤師の実務経験を有する教員が、専門領域に関する実践的な教育を、事例を交えて行う。

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	PC	1	スライド投影のため